

# 面接試験の構造化とその評価

～ 構造化のプロセスと受験者アンケートによる評価 ～

山梨医科大学 香川 知晶, 平野 光昭

## 1. はじめに

山梨医科大学医学部医学科では入学定員100名の内10名を前期日程で募集している。前期日程では、大学入試センター試験の成績と調査書の内容により、募集人員の約3倍を第1段階選抜合格者とし、その合格者に対して、小論文と面接による個別学力検査を課し、第1段階選抜の結果も含め総合的に判定して最終選抜を行っている。最終選抜における大学入試センター試験と個別学力検査の配点比率は11:5であり、個別学力検査の小論文と面接の成績はそれぞれ別個に採点し、加算する形をとっている。

従来、個別学力検査の一部として実施されてきた面接試験に関しては、幾つかの問題点が指摘されてきた。たとえば、面接が試験として持つ妥当性・信頼性について、「短時間で何がわかるか」といった形での疑問はしばしば耳にするところであった<sup>1)</sup>。

確かに、従来の面接試験においては、大テーマの設問事項は用意されていたが、評価の観点と基準は面接者の個人的な判断に委ねられる部分が多かったため、面接者によって評価が大きく違ってくるといことも珍しくなかった。そのため、山梨医科大学では従来も統計的に評価データの補正を行ってきた。しかし、評価のばらつきは設問内容と評価基準の設定の仕方によって小さくできると考え、その方法として面接の構造化を平成12年度から導入した。

この平成12年度の構造化の試みについては、すでに筆者らはその概要と当該試験による入学生へのアンケート結果を中心にして報告した<sup>2)</sup>。今回は、そのアンケート結果も考慮しながら引き続き面接試験の構造化を試みた平成13年度について、具体的な構造化のプロセスと面接試

験実施後に受験者全員を対象に行ったアンケート結果について報告する。

## 2. 面接構造化のプロセス

平成13年度医学科前期日程で実施した面接の構造化のプロセスについて、基本的な構造化の考え方とその具体的手順に分けて説明する。

### (1) 〈構造化〉という考え方

平成12年度に面接の構造化の試みを始めたときと同様に、植村研一の提案<sup>3)</sup>を参考にして、面接評価に必要な3つの視点(A~C)を設定した。それは、その提案が良き臨床医を教育するにあたって望まれる態度・習慣を示したものとして妥当性もち、卒業生の大部分が臨床医として巣立っていく医学科の入学者選抜のモデルとするのにふさわしいと考えたからである。

もちろん、筆者らは、この視点の設定によって医学科にとって望ましい入学者を完全に選抜しようとか、選抜することが可能であると考えたわけではない。

従来、「短時間で何がわかるか」といった形で面接に対して疑問が出されてきたのは、面接では受験者の人間性をトータルに判断できるとか、判断すべきだと漠然と想定されてきたためではなかろうか。そもそも人間性という概念自体が明確とはいいがたい以上、厳密に考えれば、トータルな判断など不可能といわざるをえない。

しかし、筆者らは、特定の学部・学科で望ましいと思われる学生についてのモデルを立て、その内容を分節化して視点を設定すれば、短時間であっても、一定の客観的判断を下すことは可能であると考えた。植村の提案を参考にしたのも、そうしたモデル設定の観点からであった。そして、面接の際の評価の視点をできるだけ具体的に提示することによって、その構造化を試

みた。

面接評価に必要な3つの視点については、さらに分節化し、全体で6つの評価領域(①~⑥)を設定した(表1)。これらは、植村の提案が医学部教育との関連でなされているように、受験者に対する入学後の教育の可能性の観点から設定されたものであって、受験者の受験時点で実際に身に付けている能力・態度を測ることを主眼としたものではない。また、平成12年度面接に対する反省を踏まえ、評価領域の設定にあたっては、操作的能力といった新しい評価領域を加えるなど、変更を加えた。

表1 評価視点と評価領域

評価視点	評価領域
A 学習態度—「意」	①自己学習・生涯学習
B 知的能力—「知」	②知識・理解力・解釈力
	③判断力・問題解決能力
	④操作的能力
C 医療と態度—「情」	⑤モラル・医の倫理等
	⑥コミュニケーション・マナー&人間性・態度・習慣

(2) 構造化の具体的手順

基本的な評価の視点を設定した後、具体的な試験準備の手順としては、〈素案作成→素案検討とフィードバック→設問・評価シートの決定〉というプロセスを考えた。すなわち、まず面接試験出題担当者が設問・評価シートの素案を作成し、ついでその素案を基に試験担当者(面接者)との打ち合わせ会を開催し、設問・評価基準への共通理解を図るとともに、改善の提案を求め、それを受けて出題担当者が設問・評価シートを最終的に決定するというプロセスである。このプロセスを経て、平成13年度の構造化面接

は、以下のように実施された。

面接は、小論文終了後に2グループに分けて行われたが、第1段階選抜合格者の中に推薦選抜ですでに本学に合格している者が含まれていたため、受験者は26名であった。

受験者はX, Y両グループに無作為に二分され、第1面接室(X-1, Y-1)、第2面接室(X-2, Y-2)の順で各々20分間、計40分間の個別面接を受けた。面接者は各面接室に3名、1名の受験者に対して6名、全体で12名であった。

設問は評価領域①~⑤に関連した3問とし、評価領域⑥は面接全体を通じた総合判断とした。評価領域①に関する設問Aは面接者が口頭で質問し、時間は3分。評価領域③④に関する設問Bでは、始めに受験者に机上の事物をスケッチしてもらい、そのスケッチを使った説明に関して質疑応答がなされ、時間は5分。評価領域②⑤に関する設問Cは、面接に先立って実施された小論文の一部として出題された事例をめぐって、受験者の小論文での解答も参考資料としながら、質疑応答がなされ、時間は10分とし、全体で2分の余裕を置いた。ちなみに、面接で利用した事例は、米国における「不当な出生」・「不当な命」裁判に関するものであった。そして、これらの設問に基づいて面接者の使用する「設問シート」を作成した。

図1に示したように、「設問シート」では、まず各設問が上に述べた評価の視点とどのように関係しているのかを示した。次に、どのような設問形式をとるのか(質疑応答なのか、説明を聞くだけなのか、討論形式なのか等々)をストラテジーとして限定し、その評価ポイントも説明した。ストラテジーを指定したのは、設問に多様性をもたせるとともに、各面接室で行われる面接に統一性を与えるためである。そして、確認のために配点も明示した。

面接者が評価結果を記入する「評価シート」は各設問および評価領域⑥に対応して、0点(「入学させたくない」)、10点(「劣る」)、20点(「やや劣る」)、30点(「普通」)、40点(「やや優

図1 設問シート

区分 (構造化)		時間	設問	ストラテジー	評価ポイント
A	①	3分	1. これまでに、特に興味を持って、調べたり、まとめたり、作ったりしたことについて、その内容と成果、そこから得たものを説明してください。 2. 志望動機を説明してください。	質疑応答	A : self-disclosure 1. 説明の的直さと流暢さ 2. 助詞づけと意欲  (主観的評価+客観的評価)
B	⑤ ⑥	3分	机の上にあるものをよく観察して、スケッチしてください。時間は3分間です。【観察場所を指示する】	説明を聞くだけ	B : presentation 1. 分析力 2. 操作的能力 3. 説得力  (客観的評価)
		2分	自分が描いたスケッチを利用しながら、観察した事柄について説明してください。	行動観察	
C1	④	10分	小論文の問3について、どのような事を書きましたか。その内容について、簡単に説明してください。【小論文の記述を参考に、自由に質問してください】	討論形式	C1 : communication 1. 理解・知識 2. 応答の能力 (客観的評価)  C2 : moral 1. 人格 2. モラル (客観的評価)
C2	③			難しい質問 多少のストレス	
D	②	2分	総合評価		D : humanity 1. 適性  (主観的評価)

(注) 構造化: ①自己学習・生熟学習②コミュニケーション・マナー・人間性・態度・習慣③モラル・心の倫理等④知識・理解力・探求力⑤听力・問題解決力⑥操作的技能

れている」)、50点(「優れている」)の6段階評価(評点と言語表記尺度を併記)で作成された。図2は評価シートの一部である。

こうした設問内容と評価基準の設定に関しては、基本的に平成12年度入試の方向を受け継いでいるが<sup>2)</sup>、すでに触れたように、評価領域の見直しなど平成12年度入試に対する反省を踏まえたものとなっている。変更点については以下のようにまとめられる。

平成12年度では、従来の面接試験への反省から、それぞれの面接者が聞きたいことを聞くというやり方をできるだけ排除し、受験者があらかじめ用意してきたであろう設問は避けるという方針をとった。しかし、平成12年度の入学者を対象にしたアンケートの結果を見ると、面接では、十分に準備してきたであろう事柄を尋ねることで受験者の緊張をほぐして本音を引き出す努力をするとともに、事前に予想したのとは違う質問をすることによって新しい問題状況への対応力をはかる必要が感じられた。

そこで平成13年度では、まず志望動機を聞くといったありふれた質問を設定することにした。ありふれた、おそらくは受験者が十分に準備し

図2 評価シート

評価シート(1/4)							面接室 X-1 & X-2	
A (説明の的直さ・助詞づけ)								
面接者氏名 _____								
受験番号	入学させたくない	劣る	やや劣る	普通	やや優れている	優れている		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		
*****	0	10	20	30	40	50		

てきたはずの質問をすることで受験者の緊張をほぐすことになるだろうし、受験者がアピールしたいことを引き出す手立てとなると考えられたからである。

また、前年度のロールプレイを取り入れた設問に代えて、スケッチによる説明を取り入れるこ

とにした。通常の面接とは違う設問も可能な限り年度ごとに変えていくことで、事前の受験技

術的な準備では対応しきれない場面を設定したいと考えたからである。

図3 受験者アンケート用紙

面接についてのアンケート調査にご協力をお願いします。この調査は入学試験の改善のために行われるものです。本日の入学試験とは一切関係がありませんので、面接について思ったままの意見や感想をお願いします。

入学選抜研究委員会

Q1. あてはまる箇所には○印をつけてください。

	4 4 4 4 4	3 3 3 3 3	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	0 0 0 0 0
1. 面接会場のセッティングが適切だった。					
2. 面接の流れがわかりやすかった。					
3. 面接が2回あってよかった。					
4. ストップウォッチの操作が気になった。					
5. 廊下で待っている間、面接室内の様子に気になった。					
6. 意見が言いやすい雰囲気だった。					
7. わかりやすく質問してくれた。					
8. 目を合わせて話すことができた。					
9. 大きくて、聞きとりやすい声だった。					
10. 面接官の質問が厳しかった。					
11. 設問2（スケッチとその説明）は興味深い課題だった。					
12. 設問3（小論文問3についての質問）は応答に答へた。					
13. 自分の意見を充分に言うことができた。					
14. 面接を受けて医学を勉強する意欲が増した。					
15. 面接の時間が短かった。					
16. 予想通りの面接だった。					
17. 試験の結果に手ごたえを感じた。					
18. 貴重な体験だった。					

Q2. 面接について、箇条書きで、意見や感想を自由に書いてください。

① \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

④ \_\_\_\_\_

⑤ \_\_\_\_\_

受験番号  ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

### 3. 受験者へのアンケートの実施

平成12年度の入試では、構造化面接の成果を確かめるために入学者を対象としたアンケートを実施したことはすでに述べた通りである。その自由記述を中心としたアンケートは対象人数も少なく、統計的な結論を出すにはあまりにもささやかなものでしかなかった。しかし、たとえば大学の教育は入学後に始まるのではなく、すでに入学試験の時点で始まっていることが印象づけられるなど、自由記述の内容には、試験実施者の側では往々にして見逃されがちな指摘が多く、面接試験を実施していくうえで有益であった。そこで、平成13年度は、対象を入学者だけではなく、受験者全員に拡大してアンケー

トを実施した。アンケートは面接試験終了後に、受験者が休憩するための部屋を用意し、そこに用紙を置き、任意で協力を求める形をとったが、受験者26名全員から受験番号の記入された用紙を回収することができた。

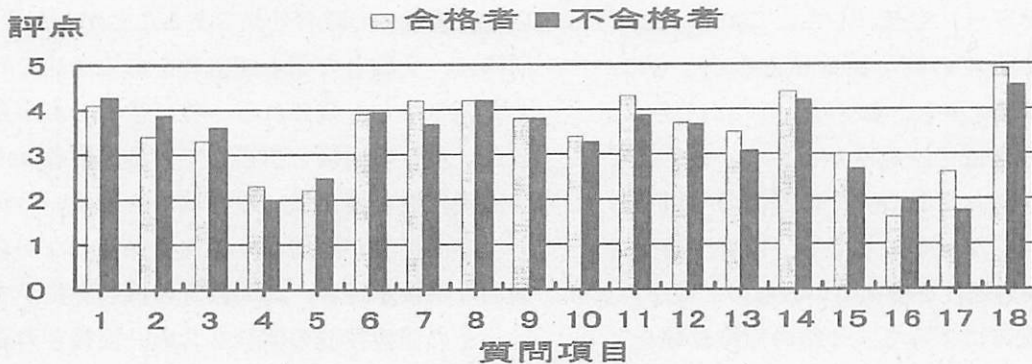
アンケートのQ1では、質問に答えて、5段階のスケール上に○印をつけてもらった。また、Q2では面接について自由に感想を記してもらうことにし、受験者の負担を考えて、アンケート全体をA5の用紙1枚に収めた(図3)。

Q1に関する回答の合格者、不合格者別の5段階評価の平均値は平均点は図4の通りである。ここから統計的に意味のある結論を引き出すことは難しい。あえて若干の相違が見られる質問項目から合格者、不合格者の違いをいうとすれ

ば、設問Bは合格者の方が興味をもって答えており（質問項目11）、合格者の方が面接に手ごたえを感じていた（質問項目17）といえるかもし

れない。しかし、全体的には合格者、不合格者で大きな違いの見られる質問項目はなく、面接は試験として適切であったと考えられる。

図4 アンケートQ1集計



また、Q2の自由記述については、26名中25名から回答を得ることができたが、平成12年度と同様、全体的には、面接が受験者にとって貴重な経験として受け取られていることが感じられた。その内容を見ると、これもまた前年度同様に、①試験場の雰囲気、②設問の印象、③終了後の感想・面接への注文の大きく3つに大別できた。

そのうち、試験場の雰囲気については緊張したという感想とリラックスできたという感想が同数あった。平成12年度では面接者が使用するストップウォッチの操作が気になったという感想が目立ったが、その点は平成13年度では改善され、受験者の面接そのものへの注意がそがれることはなかったようである。

設問に関しては、スケッチ（設問B）に戸惑った受験者が多かったことが窺われた。その感想を見ると、戸惑いの多くがスケッチの巧拙を見ているわけではないことを十分に理解していなかったことに由来することがわかる。また、小論文を利用した設問Cに関しては、様々な見解がありうる問題を議論することへの困惑を述べた感想が目立った。ここには、唯一正しい答えを出すことだけに慣れている受験者一般の傾

向が指摘できるだろうが、また逆に、正解を求めるタイプの問題とは異なる設問を用意できる面接の独自性が示されたと見ることもできる。そうした面接の独自性を生かしながら、受験者に設問の意図を十分に理解してもらう方策を工夫することがさらに必要であると考えられる。

最後に、面接への注文としては、ほとんどすべての者が試験実施までの待ち時間が大きなストレスになったという感想を述べ、受験者によって待ち時間が違う点が不公平になるのではないかという意見も多かったことがあげられる。平成13年度の場合は、面接試験は12時から開始され、最後の受験者の終了時刻は16時50分であったが、公平感の観点から工夫すべき課題が指摘されたといえる。

#### 4. まとめ

面接の構造化について、山梨医科大学での試みをできるだけ具体的に紹介し、試験実施後の受験者アンケートの結果を報告した。

構造化にあたって試みたことをまとめると、次のようになる。

##### ①面接評価の視点の明示

医学科に求められる人材に必要な能力・習慣

についてのモデルを立て、それに基づいて評価の視点を分節化した。これによって評価の観点を明らかにし、面接者が何を評価するか共通の理解をもてるようにした。

#### ②評価視点による設問の設定

設問を評価視点にあわせて限定し、設問の仕方（ストラテジー）も統一した。これによって面接に試験としての統一性を与えるとともに、面接の仕方にアクセントをつけることができた。

この面接の構造化は規模も小さく、あくまでもささやかな試みである。その評価の一環として実施したアンケートにしても、内容・結果ともに、十分な客観性を備えているものではない。ただ、この試みによって、今後の面接試験をより望ましいものにするために考慮すべき点もしだいに明確になりつつあるように思われる。最後に、そのうち二点をあげておきたい。

#### ①多様な設問の開発

構造化のポイントは評価視点をどのように分節化するかという点にかかっているが、試験として考えた場合、分節化した評価の視点に対応した設問をどれだけ用意できるかという点もきわめて重要である。質疑応答のあるものとならないもの、小論文やロールプレイやスケッチの利用といったストラテジーの開発とともに、設問自体にも多様性が保持できるような工夫が必要である。そのためには、単に一大学一学部の努力

だけではなく、面接試験を実施してきた多くの大学の経験を生かすシステムの構築も考えるべきであろう。

#### ②面接者の技能の開発

受験者のアンケートを見ると、面接が貴重な経験として大学教育の出発点ともなっているという受験者への教育効果のあることがわかるが、同時に、受験者の側も面接者がある意味で評価していることも窺われる。特に後者の点からすると、現行の面接を担当している面接者は十分な面接技能を備えている者ばかりとはいいがたい。各面接者が適切な多様性を保持しながら客観的な選抜を行い、この教育の機会を生かすには、その面接技能の開発も含め、面接者の組織的な訓練を考えるべき時に来ているように思われる。

#### <参考文献>

- 1) 平野光昭 (2001) 入試改革・誤解との闘い—山梨大学・山梨医科大学40年。山梨医科大学紀要, 18: 107-118.
- 2) 渋谷昌三, 香川知晶, 平野光昭 (2001) 面接の構造化に向けて—面接者の評価スタイル及び受験者(入学生)の面接評価。大学入試研究ジャーナル, 11: 133-138.
- 3) 植村研一 (1993) クリニカル・クラークシップ。現代のエスプリ, 313: 145-151.

図1

【X 面接室】 第1室&第2室

区分 (構造化)		時間	設問	ストラテジー	評価ポイント	配点
A	①	3分	1. これまでに、特に興味を持って、調べたり、まとめたり、作ったりしたことについて、その内容と成果、そこから得たものを説明してください。 2. 志望動機を説明してください。	質疑応答	A : self-disclosure 1. 説明の的確さと流暢さ 2. 動機づけと意欲  (主観的評価+客観的評価)	50~0点  50 優れている 40 やや優れている 30 普通 20 やや劣る 10 劣る 0 入学させたくない
B	⑤ ⑥	3分	机の上にあるものをよく観察して、スケッチしてください。 時間は3分間です。 【観察場所を指示する】	説明を聞くだけ	B : presentation 1. 分析力 2. 操作的な能力 3. 説得力  (客観的評価)	100~0点  100 優れている 80 やや優れている 60 普通 40 やや劣る 20 劣る 0 入学させたくない
		2分	自分が描いたスケッチを利用しながら、観察した事柄について説明してください。	行動観察		
C1	④	10分	小論文の間3について、どのような事を書きましたか。 その内容について、簡単に説明してください。 【小論文の記述を参考に、自由に質問してください】	討論形式	C1 : communication 1. 理解・知識 2. 応答の能力 (客観的評価)	50~0点
C2	③			厳しい質問  多少のストレス	C2 : moral 1. 人格 2. モラル (客観的評価)	
D	②	2分	総合評価		D : humanity 1. 適性  (主観的評価)	50~0点

(注) 構造化：①自己学習・生涯学習／②コミュニケーション・マナー&人間性・態度・習慣／③モラル・医の倫理等／④知識・理解力・解釈力／⑤判断力・問題解決力⑥操作的な能力

面接試験の構造化とその評価～構造化のプロセスと受験者アンケートによる評価～

図 2

評価シート (1/4)				面接室 X-1 & X-2		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;">A (説明の的確さ・動機づけ)</div>						
面接者氏名						
受験番号	入学させたくない	劣る	やや劣る	普通	やや優れている	優れている
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
休憩						
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50
*****	0	10	20	30	40	50



図 3

面接についてのアンケート調査にご協力をお願いします。この調査は入学試験の改善のために行われるものです。本日の入学試験とは一切関係がありませんので、面接について思ったままの意見や感想をお願いします。

入学者選抜研究委員会

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	ややあてはまらない	あてはまらない
Q 1. あてはまる箇所に○印をつけてください。					
1. 面接会場のセッティングが適切だった。	_____	_____	_____	_____	_____
2. 面接の流れがわかりやすかった。	_____	_____	_____	_____	_____
3. 面接が2回あってよかった。	_____	_____	_____	_____	_____
4. ストップウォッチの操作が気になった。	_____	_____	_____	_____	_____
5. 廊下で待っている間、面接室内の様子が気になった。	_____	_____	_____	_____	_____
6. 意見が言いやすい雰囲気だった。	_____	_____	_____	_____	_____
7. わかりやすく質問してくれた。	_____	_____	_____	_____	_____
8. 目を合わせて話すことができた。	_____	_____	_____	_____	_____
9. 大きくて、聞きとりやすい声だった。	_____	_____	_____	_____	_____
10. 面接官の質問が厳しかった。	_____	_____	_____	_____	_____
11. 設問2（スケッチとその説明）は興味深い課題だった。	_____	_____	_____	_____	_____
12. 設問3（小論文問3についての質問）は応答に苦しんだ。	_____	_____	_____	_____	_____
13. 自分の意見を十分に言うことができた。	_____	_____	_____	_____	_____
14. 面接を受けて医学を勉強する意欲が増した。	_____	_____	_____	_____	_____
15. 面接の時間が短かった。	_____	_____	_____	_____	_____
16. 予想通りの面接だった。	_____	_____	_____	_____	_____
17. 試験の結果に手ごたえを感じた。	_____	_____	_____	_____	_____
18. 負重な体験だった。	_____	_____	_____	_____	_____
Q 2. 面接について、箇条書きで、意見や感想を自由に書いてください。					
①	_____				
②	_____				
③	_____				
④	_____				
⑤	_____				
受験番号		ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。			

図4

